

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592200028		
法人名	社会福祉法人高千穂天寿会		
事業所名	グループホーム寿久の里		
所在地	西臼杵郡日之影町大字七折1850-1		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&jisyosyoCd=4592200028-00&PrefCd=45&VerSign=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おやつは、手作りおやつを基本としている。月1回のおやつバイキングをして、チケットと交換(お金の代わり)し、お金を使う感覚をあげてもらっている。笑顔をもっととして、日々のケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームとして3年目を迎えている。職員は、同法人の介護老人福祉施設等からの異動による経験豊富な職員や、新人職員同士がお互いを尊敬し、研さんしあいながら、日々利用者にとって、何が安心して笑顔で暮らし続けることができるかを考えている。職員の姿勢は、利用者に対して優しく穏やかであり、利用者も安心してゆったりと過ごしているのを感じ取れるホームである。隣接する同法人の施設は、利用者の重症化や終末期の受け皿となることや災害時の協力等、バックアップ体制が確立されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	0	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念はあるが、「寿久の里」の理念を独自に考え、常に見える位置に貼り、意識づけを行っている。	職員全員でホームの理念をつくるための検討を重ねた結果、「笑顔」の熟語に集約し、作り変えている。日々話し合うことで、理念が支援につながる努力を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	養護老人ホームとの合同の行事や、希望者には行きつけの美容院に出掛けたり、買い物や自宅周辺にドライブに出掛け、近所の方達と話をしたりしている。また、慰問に来て頂き、一緒にお茶のみを行っている。	小規模な町では、住民同士は旧知の関係であるので、散歩や買い物、地域行事などの外出やデイサービスなども交流の機会としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会時に色々な支援の方法を提案していただいているが、地域貢献には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様一人一人の現在の状況を報告し色々な意見をいただいている。職員会議でも報告を行い取り入れられるものは取り入れられている。また、毎月通信も発行している。	行政職員をはじめ、地域の代表者も参加し、定期的開催している。ホームの報告や相談を交え、建設的な意見や提案が活発に出され、改善につながる事項が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日之影町保健センター所長が運営推進委員会のメンバーである為、地域包括支援センター等のパイプ役になって下さっている。	行政・地域包括支援センターの職員と気軽に話し合える関係を築くため、積極的に行政的問題など、出向いたり、電話等で相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全職員理解はしている。利用者様一人ひとりの状況を把握し、危険度の高い時のみ施錠を行っている。	月1回の会議において、身体的拘束やスピーチロック・介護放棄について研修し、事例検討により理解を深めている。帰宅願望が強く転倒しやすい利用者に対し、事故防止のための玄関の施錠は、必要最短に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会が少ない為、管理者が研修に行った際に報告を行ったり、新聞雑誌等で得た情報を、職員間で伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ない為、管理者が研修に行った際に報告を行ったり、新聞雑誌等で得た情報を、職員間で伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解してもらっている。また、わからない時等には、その都度問い合わせをして頂くよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、面会時には積極的に話しかけ、要望等を出しやすい関係づくりを行っている。運営委員会のメンバーに家族代表がいらっしゃるため、率直な意見も出ている。要望等あった時には、その都度職員間で話し合っている。	「寿久の里通信」には、多くの写真で利用者の表情や生活状況を知らせ、来訪時に意見が出しやすいように配慮している。家族からの意見で、職員のネームプレートの希望に対し、介護時の支障にならない装着を話し合い実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度話し合ったり、全体会等で意見を出し合っている。	ミーティングでは、カンファレンス、業務、その他の3項目を常に話し合い、全職員で結果を共有し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は法人で統一されている。環境においては、希望休をいれたりし、働きやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や町で行われる研修に参加したりしている。また、外部から講師を招いて研修を行う予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の勉強会に参加したり、同法人内で交流を行い、意見交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一緒に料理をしたり、作業を手伝ってもらったりし気分転換をはかっている。また、家族への入電やドライブ等も行う事によって、安心される事が多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には居室へ行き、現在の状況を説明し、また、家族からの意見もその都度聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、協力機関へつなぐ対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、草引きや畑仕事を手伝ってもらったりしている。また、季節の行事等の準備も一緒にし、季節感を感じて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族には電話連絡したり、毎月通信や手紙等を送付し、現在の状況をお知らせしている。また、面会時等に負担等を聞き入れ、相談に応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や買い物に出掛けたり、自宅周辺にドライブに行き、近所の人達と話したりし関係を継続している。	全員の外出を支援している。自宅、墓参り、耕作地など、個人ごとのなじみの場所や共通のなじみである町内の公園や神社、足湯で癒される楽しみの場などに外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーション等は職員が間に入り、孤立する方がいないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も移動先への情報提供や相談に応じる事は家族へ説明済みである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅欲求が強い方が多く、一人ひとりの帰宅欲求の理由や状況を把握し、常に職員で話し合っている。	家族や関係者に話を聞いたり、利用者の日々の生活の中でも、食事中や入浴時など、環境を変えて傾聴し、思いや意向の把握に努めている。得意なこと、興味を持っていることを話題にしながら、話せる環境作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	近所の方や家族等に話を聞き、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や伝達ノートで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントをとり、ケアマネが家族や本人の要望を聞いている。また、職員同士で何が一番いいのか担当者会議等で話し合っている。	利用者ごとの担当職員が中心になり、利用者や家族の意向、基本情報、介護記録、日誌を基にアセスメントし、本人の状況に沿った介護プランが立てられており、毎月モニタリングもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録により個別記録を行い、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方や高齢で対応できない部分は変わって対応し、協力をしている。		

宮崎県日之影町 グループホーム寿久の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方と話をしたり、慰問の方々と一緒にお茶のみをしたり、行事に参加したりし、日々の生活を楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が遠方の場合はホームにて対応を行っている。家族が受診される場合は、主治医に状況を手紙に書き、家族に渡して頂いている。遠方の家族には、特変時や電話があった際に状況を説明している。	希望する掛かりつけ医に、家族、又は職員同行で受診し、治療を継続している。情報提供を同行する家族に託す場合の、情報提供書(書式)を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師がいない為、町立病院の看護師に電話をし指示を仰いだり、インターネットや同法人の看護師にきいて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、現在の状況を看護師から聞いたり、他入居者の受診の際に、主治医や看護師から情報を提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、家族へ重度化した際の場合の説明を行っている。レベル低下がみられる入居者の家族には、ホームの方針を伝え理解をいただいている。	法人全体および協力医療機関と話し合いを重ね、現段階でホームのできることを検討した結果、「重症化や終末期は、病院又は同法人の特別養護老人ホームが受け皿として対応する。」方針となった。家族への口頭での説明を、文言化することを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実務経験が少ない職員が多く、訓練は必要である。応急手当の方法などは、その都度同法人内の看護師に聞いたりし、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を含めた避難訓練を2回程行っているが、地元消防団への参加までは至っていない。今後、隣にある養護老人ホームとの合同の避難訓練を予定している。	夜間を想定した避難訓練を行っている。避難時間やマンパワー、避難経路等確認や問題点が把握できた。地元消防団や隣接する施設との協力体制、地域の協力、立地条件が3方向からの道路の交差点上であり、災害時の通行遮断への対策、屋外への脱出ルートなどの検討が必要である。	個々の課題対策のほかに、救助者が行動しやすい居室からの脱出に対する高窓対策として、外側には、普段は縁台となる足台、リビングの窓側にはベンチチェストを設けるなど、最短時間と最短距離で脱出できる対策も検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前より改善はされてきている。声が大きくなる時もあるが、強い口調にならないよう、常に意識している。	言葉使いに気を付けるだけでなく、声のトーンや速さにも気を配り、年長者としての誇りを傷つけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの参加は本人に任せ、行動してもらっている。10時の水分補給も、本人が飲みたい物を選んで頂き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午後からの時間は何がしたいか尋ねている。一人ひとり好きなように過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、本人が気に入る洋服を着たり、髪染めや散髪は美容院へ出かけたりにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に何度かは一緒に料理をしたり、おやつ作りを行っている。片付けは全員で行っている。	献立は、法人の栄養士がサポートしている。週2回は自由献立、月1回は「おやつバイキング」、誕生者の献立は、本人の食べたい物にするなど、柔軟に対応している。毎日のおやつの基本は手作りのもので、家族や地域の農産、果物の差し入れを活用している。利用者も一緒に参加できるので、作る楽しみ、食べる楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の養護老人ホームの栄養士が献立をたてている。食事量のチェックも細かく行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、うがいに関してはお茶で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアパットを使用している入居者は、紙パンツより布パンツへ変更を行った。トイレ誘導の必要な入居者には、誘導時間を記入し、細かく介助を行っている。	日中は、排せつ記録からパターンを把握し、トイレ誘導を行いながら、尿とりパット・布パンツでの対応をしている。費用負担の軽減だけでなく、利用者のプライドの保持に有効である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表のチェックを行い、医師の指示のある方には内服にて調整を行っているが、おやつや飲み物で調整する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望により行っているが、殆どは隔日の希望である。また、入浴剤を入れたりし、楽しめるように工夫している。	基本的には、隔日の入浴が多いが、回数や時間、順序は利用者の希望に沿う支援をしている。ゆず湯や入浴剤、保湿剤で、懐かしさや温泉気分を楽しめる支援を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝は好きな時間に起き、夜は好きな時間に休んでもらっている。日中昼寝をしたい時には、居室に行き休んだり、リビングのソファや畳で休んだりできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に一覧を閉じ、いつでも職員がみられるようにしている。また、内服変更時には、伝達ノートに記入し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事等には地域ならではの事をしたり、畑仕事をしたりし、気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭を散歩したり、近所へドライブに出掛けたりし、近所の方や隣接の養護老人ホームの方と話をしたりしている。	職員による外出や家族の協力による外出があり、外出の希望を把握し、実現できるよう努めている。	

宮崎県日之影町 グループホーム寿久の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ちたい希望者には、家族了解の下、持ってもらっている。おやつバイキング時には、お金の代わりにチケットを配り、引き換えで食べるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、電話を取り次いでいる。手紙は年賀状を書かれるぐらいである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下は入居者が作った作品や季節の飾りつけを行い、くつろげる空間づくりに取り組んでいる。	リビングからは方向により、個人宅や老人ホーム、山間の風景などさまざまである。ホーム全体の内部はひのきや杉が使われ、温かみと落ち着き、木の香りに包まれて、ゆったりとした感覚を醸し出し、落ちついた空間になるよう工夫している。居室やトイレの配置も、長屋のように直線上に配置せず、凹凸の配置が、玄関のある一戸建の風情があるつくりになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをテレビの前に配置したり、畳のスペースがある為、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団は自宅からの持ち込みである。家族に相談するが、なかなかなじみの物の持ち込みが実現しない為、写真や花等を飾って飾り、明るい雰囲気になるように努力している。	各居室には洗面台があり、ホーム内のトイレも5か所と多く、排せつや洗面は利便的である。ベッドと収納力のあるクローゼットは備え付けである。寝具は利用者の好みで、羽毛や綿製などを使用している。部屋の表示は、△△番地と書かれ、表札の必要者には、名前を表示して、間違えない配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、常に明るくわかりやすいように目印等をつけている。		